



勇気と愛は海を越える

第23回 チェスボローカップ水泳駅伝

「勇気と愛は海を越える」を合言葉に第23回チェスボローカップ水泳駅伝が8月5日、富范町マグアビーチで開催されました。この日は、好天に恵まれ、県内外から参加した43チーム215人が仲間や観客の声援を受けながら力泳。今年の参加者の合計距離は110.5^{km}、通算距離は4985.34^{km}で、目標まであと5214.66^{km}となりました。

参加者らは、真夏の日差しのもと、つがる市の自然や特産品を満喫しながら交流の輪を広げていました。



スタートの合図とともに勢いよくスタートする選手たち



オープンクラスでは1人1キロを力泳



元気に海に飛び込むジュニアクラス

大会結果(上位3チーム)

クラス	優勝	タイム	第2位	タイム	第3位	タイム
ハーフオープン	水神戦隊 オヨグンジャー (弘前市)	31分03秒	最強精鋭部隊(笑) (弘前市)	32分14秒	アカデミー五所川原 陸杜引退レース (五所川原市)	33分21秒
シニア	アカデミー Dandys海猿 (板柳町)	38分25秒	脇坂組 シルバース (神奈川県茅ヶ崎市)	39分41秒	青森 鉄人会 (青森市)	43分12秒
レディス	MADONNA (弘前市)	36分45秒	おばさんと こぶた255 (福島市)	46分22秒	powerful mermaid F.Cwing親子 (三沢市)	47分16秒
ジュニア	アカデミー 五所川原チームS (五所川原市)	12分11秒	およげメロン 2012 (弘前市)	12分57秒	Team s♡j フィーチャリング SIN (青森市)	13分19秒
オープン	TECHNOBREAKERZ RETURNS (弘前市)	1時間 14分06秒	だてこう デルフィンス2 (秋田県比内町)	1時間 15分44秒	力也組 (弘前市)	1時間 18分31秒



次の泳者へ気持ちをつなぐ

チェスボローカップ 水泳駅伝

明治22年に車力沖で座礁した米国メイン州バス市の貨物船チェスボロー号を旧車力村民が救助したのをきっかけに、先人の勇気と愛を受け継ごうと平成2年から開催。参加者全員の泳いだ距離を合計し、つがる市とバス市との直線距離1万200*を泳ぎつなぐことを目標に毎年開催されています。

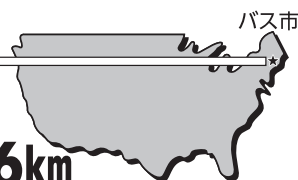
主催はチェスボロー倶楽部（秋田谷建幸会長）。

10200km



通算達成距離
4985.34km

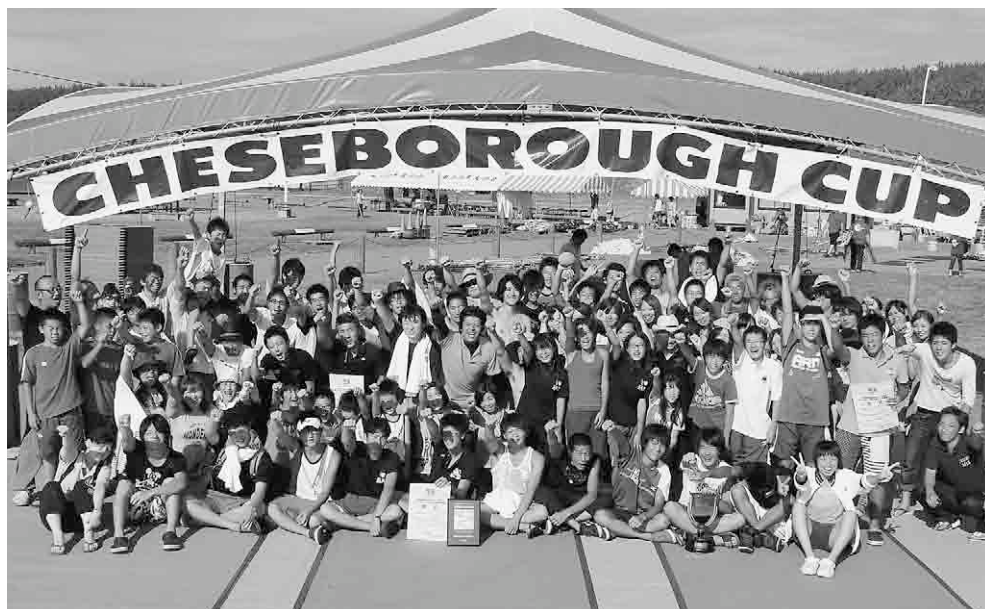
目標まであと
5214.66km



泳いだ後のメロンは格別



チーム全員でゴールの喜びをわかち合うスイマーたち



大会終了後「チェスボローカップ！」の掛け声で夢を来年へつなく



大きな声援を送る仲間たち



市の特産品などが贈られた表彰式

水泳駅伝を前に小学生がライフセービング体験

8月4日、チェスボローカップ水泳駅伝を前に、ライフセービング体験が行われ、市内小学生が海に潜む危険と安全対策について学びました。参加児童は、つがるライフセービングクラブの会員の指導のもと、水中でのライフジャケットの付け方やペットボトルを使った救助方法などを実際に体験しました。

また、ライフセーバーが走力や反射神経を鍛えるためのスポーツであるビーチフラッグスの大会も開催され、参加児童は砂浜で旗を目掛けて全力疾走し、白熱した戦いを繰り広げていました。



旗を取り合うビーチフラッグス大会



ライフジャケットを着用して浮力を体感する児童たち



つがるの夏の味覚 メロンの話題



おいしいメロンを届けます つがるブランドメロン初出荷式

7月23日、つがるブランド認定メロンの初出荷式が、つがるにしきた農協越水支店で行われ、福島市長、農協、生産者、関係者ら約60人出席しました。

この日出荷されたのは、市独自の栽培・出荷基準を満たした糖度15度以上のタカミメロン740ケース。福島市長が「大雪の影響で心配されましたが4、5月の好天候により平年並みに回復し、味、外観ともに良質なメロンに仕上がりました」とあいさつを述べました。

出荷式では、木造西幼稚園の園児が「おいしいメロンを全国に届けてください」と、トラックのドライバーに花束を贈呈。つがるちゃんも駆け付けテープカットの後、関係者一同でトラックを見送りました。



メロンの初出荷を祝ってテープカット

東京都内でつがるブランドをPR



町田市でつがるブランドメロンをPRする福島市長

つがるブランド推進会議（会長・福島弘芳市長）は7月26日から29日まで東京都内で、つがる市産のメロン、スイカなどの試食販売会を行いました。

販売会は、26日、27日は新宿区の防衛省内のコンビニエンスストア、28日、29日は町田市の「ぽっぽ町田」で開催。福島市長、山本市議会議員、生産者、農協、津軽まほろば会の会員らが、試食用に切り分けたタカミメロンや小玉スイカを買い物客や通行人に勧め、つがるちゃんも一緒にPRしました。試食した買い物客らは「あまい」「おいしい」とジューシーな夏の味覚を味わいながら、次々と買い求めていました。

つがるブランドメロンが学校給食に登場

7月19日、20日、市内全ての小中学校の学校給食に、つがるブランドメロンが登場しました。これは、市教育委員会が、地産地消の推進を図ろうと実施したもので、児童たちは、給食を食べ終わった後、カットされたつがるブランド認定のタカミメロンを豪快に丸かじりし、口いっぱいに広がるおいしさを味わいました。

穂波小学校3年生の長谷川紀香さんは、「家でもメロンを作っているけれど、給食でみんなと一緒に食べたらとてもおいしかった。また給食で食べられたらいいな」と話していました。



給食でメロンを味わう穂波小学校の児童たち

「一坪地主」がメロンの収穫を体験



メロンの収穫を楽しむツアー参加者

つがるにしきた農協による「メロン一坪地主収穫体験ツアー」が8月6日から8日まで行われ、抽選で選ばれた首都圏からの20人が大きく育ったメロンの収穫と味覚を堪能しました。

一坪地主制度は、つがるブランド推進会議が協賛して今年で2回目。6日、一行は、東北新幹線はやぶさを利用してつがる市を訪れ、木造吹原地区の樋口秀美さんの園地でメロンの収穫を楽しみ、甘さたっぷりのタカミメロンを味わいました。東京都から参加した津田一江さん、陽子さん親子は「青森県は初めて。津軽平野ののどかな風景に癒されました」「メロンは最高。畑を実際に訪れ、生産者の話を聞いてメロンを育てる大変さがわかりました」と話していました。

プランター栽培のメロンを保育園児が収穫

イオンモールつがる柏で観察栽培されていたプランターによるメロンが収穫の時期を迎え、8月17日、かしわ保育園（佐藤修子園長）の園児による収穫体験が行われました。このプランター栽培のメロンは、成長過程を多くの人に見てもらおうと6月11日から市出張所前に設置されてきたもので、この日、園児らは生産者らの説明を聞いた後、はさみでメロンのつるを切り取って収穫の喜びを満喫しました。

栽培管理を担当した市農村青少年クラブ連絡協議会（4Hクラブ）の樋口剛会長は「一番苦労したのは水管理。小ぶりなものもありますが、何とか収穫できるまで大きくなってくれた。プランターでのメロン作りが成功し好評だったので、今後、一般家庭でも手軽に栽培できるよう工夫したい」と意気込みを語りました。



プランターで育てられたメロンを収穫する園児たち

皆で守ろう！メロン・スイカ



メロンの育成状況を確認するパトロール隊

メロン、スイカの本格的な収穫時期に合わせ、盗難を未然に防ぎ、生産者が安心して収穫できるよう防犯協会、警察署、市、防犯指導隊、自主防犯パトロール隊が連携して「メロンロードパトロール隊」を結成し、盗難防止のパトロールに努めています。

7月31日、市役所玄関前で行われた出発式では隊員ら約35人が出席し、つがる警察署の相馬完署長が「生産者が丹精込めて作った農産物の盗難は決して許されるものではない。これまで以上に防犯意識の高揚に努めましょう」と呼び掛けました。

出発式後、隊員らは車に分乗し、市内のメロンやスイカ畑周辺を巡回しました。